（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハビー大宮桜木町2丁目教室			
○保護者評価実施期間	2025年　7月　25日	～	2025年　8月　15日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	68	（回答者数）	63
○従業者評価実施期間	2025年　7月　21日	～	2025年　7月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　8月　３１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人のニーズを細やかにくみ取り、専門的な視点から支援を提供している。	個別支援計画検討会議の時間を有意義に使い、専門的な視点から多角的に意見交換を行い、利用者様のニーズや課題に適切に対応している。	心理検査をはじめとしたアセスメントを積極的に収集し、常に専門的な視点を意識しながら支援を提供していく。同時に、職員一人一人のスキルアップの機会を確保していく。
2	集団の長所を生かし、利用者様一人一人の可能性を最大限発揮できる支援を提供している。	指導員ー利用者という一方向的な支援だけではなく、集団の力動を利用しながら、他者の意見や視点を取り入れられるような支援を組み立てている。	曜日や時間の制約がある為、可能であれば固定枠の調整も検討する。
3	イベントや課外活動を積極的に取り入れている。	季節感を大切にし、利用者様の興味や体験の意味を理解しながら、イベントや課外活動を企画・運営をしている。	単発に終えるのではなく、シリーズ化していくことも有効と考えられる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流が少なく、また地域に開かれた場を提供する機会が少ない。	関係機関連携は積極的に行うことができている一方で、地域に対して事業所の認知度を広める活動には着手できていない。	まずは、地域の拠点となる行政機関、関係機関、事業所などと交流する機会を設ける。
2	SNSなどで発信する機会が少ない。	教室内への掲示はできているが、SNS等を使った発信には消極的になっている。	コノベル（連絡用アプリ）など現在使用しているツールを最大限利用しながら、教室での活動や取り組みを発信していく。
3	保護者様同士の交流の機会を提供する場がない。	家族支援は、個別・集団を問わず実施できている一方で、保護者様同士の交流は、モニタールームでの交流に限定されがちである。	学校の形態(普通級・支援級)や進学に関する情報などをまとめ家族支援を提供するとともに、保護者様の交流する機会を提供する。